

夏休みエコ絵画コンクールは、千葉県が進める「総合的な環境学習の推進事業」に基づき、平成18年度より開催しており、千葉県内だけで実施しており、千葉県内毎年1万人を超える児童が参加しています。

このコンクールは、不要なもの、価値がなくなったものについて考え、ごみを減らしていくことは自分たちの務めだということを感じ、自然と気づかせます。そして「将来こんなふうになったらいいな」というアイデアを空想する時、子供たちはとても楽しく夢を膨らませます。このコンクールの人気の秘密がそこにあります。表現は絵画とコメントですが、絵が苦手な人にも取り組みやすいのが特長です。



●コンクールのねらい

自分たちを取り巻く環境や地球資源の大切さを感じ、学び、考えるきっかけを提供することを第一の目的としています。

「資源循環の持続可能な社会形成」は地球全体の課題です。したがってこれまでの応募作品はどれも地球愛に溢れています。

子どもたちが画用紙に向かうとき、まずは生まれ育つ千葉県を美しいふるさととして大切に思う気持ちが芽生えるでしょう。それが愛国心につながると良いと思っています。

●授業やご家庭で

「未来のごみ箱」は図工教科だけでは完成しません。身の回りや実社会で起こったニュース、社会科、理科、総合的な学習の時間、道徳、学校生活にヒントがあります。

●先生や保護者の皆さまに

皆さまにお願いいたします。低学年には、使い捨ての実態やおもちゃの寿命を例に意見を出し合う時間を設けていただけませんか。中・高学年では、清掃工場の見学や地域社会、千葉県の理解と関連させ環境問題のお話をしていただけませんか。

ほんの少しの話し合いの刺激が子どもたちの想像力を湧き上がらせると思います。

●学齢に応じて

学年を問わず、子どもたちの視点は広く、ごみを減らすためのアイデア、出さないアイデアは大人を関心させるのに十分です。低学年でも楽しく取り組んでいます。「整理整頓」や「環境美化」はコンクールの趣旨から外れますのでご注意ください。

●先生方の声

作品応募時にいただいた声を一部抜粋して紹介します。

作品づくりを通して、環境問題を考えるきっかけになっていと感じました。子ども達なりに豊かな発想でさまざまなアイデアを出しながら楽しく取り組めるものだと思います。夏休みの自由課題として取り組みましたが、社会科や生活科の学習とのつながりを意識して取り組めるとよいです。

ごみ問題はとても難しい。人間の欲がある限り、解決することはできません。その中で「せめて」という程度の方法を考えていくしかないと思います。子ども達には、このコンクールを通じ、「自分の周囲がきれいに」だけではなく、地球全体としてどう減らしていくかという大きな視点に立って考えていてもらいたいと思います。

環境やごみの問題を学習していく中で、身近な問題としてとらえることができる児童と、そうでない児童もいます。このコンクールは、多くの児童が環境問題を自分事としてとらえ、考えるのに有効です。すでにある程度理解ができている児童にとっても、考えを深めたり表現したりするのに役立つことができました。また図工の観点からも、「未来のごみ箱」というテーマは、身近でイメージを広げやすく、それぞれの個性が作品に表れやすいのでよいと思います。夏休みの課題の一つとしてこのコンクールを活用しましたが、学習の中に組み入れるのもよいかと感じました。

非常にユニークで楽しい作品や実用的なものまで、子どもたちの豊かな発想力に驚かされました。このコンクールをきっかけに、子ども達の「エコ」に対する意識が高まり、学校生活における基本的生活習慣につながっていったらと思います。